

① 金星の構造に謎が多い根拠を書きましょう。

金星に長さ1万キロの「弓」

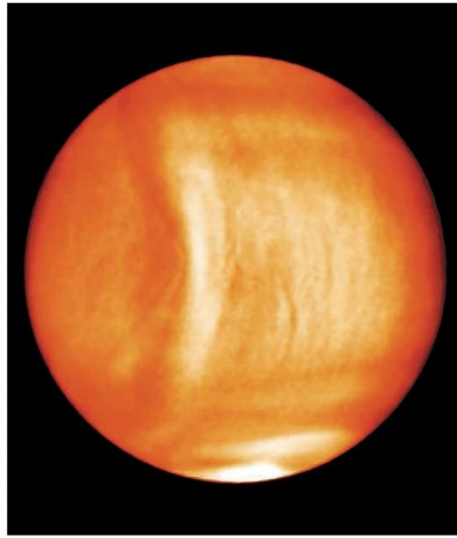
「あかつき」で大気を初観測

金星の大気が山などにぶつかってできた長さ1万キロにも及ぶ弓状の模様を日本の金星探査機「あかつき」で観測したとの研究結果を、立教大などのチームが16日付の英科学誌電子版に発表した。2015年12月の金星軌道投入後の科学的成果は初めてという。

金星は非常に厚い雲に覆われ、大気上層では秒速100キロにもなる高速の風「スーパーローテーション」が吹くなど、構造には謎が多い。チームの福原哲哉・立教大助教（惑星物理）は「この成果が金星大気のメカニズム全貌を解明する手がかりにつながる」としている。

チームは、雲の温度を調べられる赤外線カメラで観測。北半球から南半球にまたがる形で、長さ約1万キロ、幅は数百キロに及ぶ弓状の模様が大気中にのびているのを発見した。この弓も同様の仕組みでできたのではないかとチームはみている。

赤外線カメラで撮影した金星の画像。中心からやや左の北半球から南半球に向かって弓状の模様がのびている。白っぽい部分は周囲より温度が高く、左に隣接する黒っぽい部分は温度が低い（©Planet-C）



② 弓状の模様がなぜできたかについて、チームはどう推測していますか。

③ この発見が大きなニュースになったのはなぜでしょうか。